
道筋

治伎

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
道筋

【Nコード】
N4227A

【作者名】
治伎

【あらすじ】
時は近未来、世界はある計画を現実にしようとしていた。計画の前線基地として機能している研究所に計画を阻止せんとする少年が潜入する。

「くっ……くるな！」

目の前にいる男は、僕に向かって鈍く銀色に光るナイフを突き付けている。

男は、時折威嚇するようにナイフを振り回す。鋭い刃が風を切り裂く音はいつまでたっても聞き慣れることはなかった。

「来るな！来るな！」

男はもはや理性を失ってしまったようにその言葉だけを連呼する。僕はその男に一步步近づいた。

「うわあああ、くるなあ！」男はまるで手負いの獣のようにがむしやらに突進をかけてきた。

本来の目的はこの男の殺害ではない。用があるのは男の後ろにある研究資料、計画ではレプリカとすり替える予定だったがどんな偶然か、本来なら無人の研究室に一人の男が残っていたのだ。しかも凶器となる刃物を持って。

チツという舌打ちが自然と漏れる。突進してきた男をかわすと、男はその勢いのまま壁へと激突した。

鈍い音が室内に響くと男は呆気なく崩れ落ちる。

「くそ、時間を食ったな」

施設のセキュリティを解除してすでに二時間が経過している。ぐずぐずしているとセキュリティプログラムが再起動してしまう。見つかってしまったら今回の潜入は失敗してしまうだろう。

山のように重なった資料の中から《道筋》の書かれたものを探し出

す。

「これか」

『全機械化計画』世界を機会に委ねてしまおうという人類の墮落の象徴とも言える世界の機械化計画。

懷に資料をしまうと僕は駆けた、出口へ、出口へ。

途中セキュリティが再起動し、瞬くまに施設中に警報が響渡る。

僕の脳裏に先程の男が思い浮かぶ。強大な存在に貧弱な武器を持ち、必死に立ち向かおうとする弱者。

まるで強大な組織と単独で戦っている僕を見ているようで、ほんの少し胸が苦しくなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4227a/>

道筋

2011年1月4日03時35分発行